

平成27年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢北陵高等学校

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）															
1 皆出席者を増やすとともに、挨拶の励行、服装容儀を整えるなど基本的な生活習慣を確立し、規範意識をより一層高める。	① 時間厳守の指導を徹底することで、遅刻・欠席の減少と皆出席を奨励する。また、登校指導等により挨拶の励行を推進する。	<p>【成果指標】学年あたり1年間の皆出席者数が</p> <p>A 100人以上であった</p> <p>B 70人以上～100人未満であった</p> <p>C 50人以上～70人未満であった</p> <p>D 50人未満であった</p> <p>【努力指標】（生徒）自ら進んでの挨拶が</p> <p>A よくできている</p> <p>B だいたいできている</p> <p>C あまりできていない</p> <p>D ほとんどできていない</p>	<p>C 51.6人</p> <p>3年 62名</p> <p>2年 44名</p> <p>1年 49名</p> <p>A+Bの平均=76.4%</p> <table border="1"> <tr> <th>前期</th> <th>後期</th> <th>平均</th> </tr> <tr> <td>A 28.9%</td> <td>32.4%</td> <td>30.6%</td> </tr> <tr> <td>B 45.7%</td> <td>45.8%</td> <td>45.8%</td> </tr> <tr> <td>C 22.0%</td> <td>19.2%</td> <td>20.6%</td> </tr> <tr> <td>D 3.4%</td> <td>2.6%</td> <td>3.0%</td> </tr> </table>	前期	後期	平均	A 28.9%	32.4%	30.6%	B 45.7%	45.8%	45.8%	C 22.0%	19.2%	20.6%	D 3.4%	2.6%	3.0%	<p>皆出席を意識する生徒が少なく、遅刻者数が増加した。遅刻者に対しては、保護者の理解も得ながら、時間厳守についての意識付けを徹底させたい。社会性を身につけることが課題であるので、体調管理の大切さも自覚できるよう、機会あるごとに指導していく。</p> <p>昨年度より挨拶の習慣が身についてきたようだが、目標の80%には届かなかった。次年度以降も、挨拶が社会生活の基盤であることを意識して生徒自ら挨拶できるよう、部活動によるあいさつ運動等の取組を充実させたい。</p>
	前期	後期	平均																
	A 28.9%	32.4%	30.6%																
B 45.7%	45.8%	45.8%																	
C 22.0%	19.2%	20.6%																	
D 3.4%	2.6%	3.0%																	
② 服装容儀の指導を徹底し、生徒の規律・マナーの向上を目指す。	<p>【満足度指標】（生徒）北陵生は頭髪・服装容儀やマナーなどについて</p> <p>A よく守っている</p> <p>B だいたい守っている</p> <p>C あまり守っていない</p> <p>D ほとんど守らなかった</p>	<p>A+Bの平均=89.8%</p> <table border="1"> <tr> <th>前期</th> <th>後期</th> <th>平均</th> </tr> <tr> <td>A 44.0%</td> <td>42.9%</td> <td>43.4%</td> </tr> <tr> <td>B 44.0%</td> <td>48.9%</td> <td>46.4%</td> </tr> <tr> <td>C 11.1%</td> <td>7.4%</td> <td>9.3%</td> </tr> <tr> <td>D 0.9%</td> <td>0.9%</td> <td>0.9%</td> </tr> </table>	前期	後期	平均	A 44.0%	42.9%	43.4%	B 44.0%	48.9%	46.4%	C 11.1%	7.4%	9.3%	D 0.9%	0.9%	0.9%	<p>ほとんどの生徒は容儀やマナーを意識して行動できているが、一部、学校内外において制服の着用が乱れるなど、マナーを守れない生徒が見受けられるため、将来の社会人としての生活を意識させながら生活指導を行っていききたい。</p>	
前期	後期	平均																	
A 44.0%	42.9%	43.4%																	
B 44.0%	48.9%	46.4%																	
C 11.1%	7.4%	9.3%																	
D 0.9%	0.9%	0.9%																	
③ 生徒の行動に注意を払い、生徒の面接や保護者との連絡をより密にし、学校組織として生徒理解を深める。	<p>【満足度指標】（生徒）校内で時々声をかけてくれる先生や悩みについて相談に応じてくれる先生方は</p> <p>A 3人以上</p> <p>B 2人</p> <p>C 1人</p> <p>D 0人</p>	<p>A+Bの平均=51.1%</p> <table border="1"> <tr> <th>前期</th> <th>後期</th> <th>平均</th> </tr> <tr> <td>A 27.5%</td> <td>20.8%</td> <td>24.1%</td> </tr> <tr> <td>B 29.2%</td> <td>24.9%</td> <td>27.0%</td> </tr> <tr> <td>C 20.3%</td> <td>15.4%</td> <td>17.9%</td> </tr> <tr> <td>D 23.0%</td> <td>38.9%</td> <td>31.0%</td> </tr> </table>	前期	後期	平均	A 27.5%	20.8%	24.1%	B 29.2%	24.9%	27.0%	C 20.3%	15.4%	17.9%	D 23.0%	38.9%	31.0%	<p>全体の31%の生徒が、「時々声をかけてくれる先生や悩みについて相談に応じてくれる先生がいない」と回答している。これは、本校の教職員に、生徒との信頼関係を築く努力が不足していることを示している。教員は随時面談を行い生徒理解に努めたものの、悩みを打ち明けられるまでに至らずこのような結果になった。今後は生徒の些細な変化に気づくよう面談の回数を増やして生徒の実態把握に努め、生徒理解を深めることが課題である。</p>	
前期	後期	平均																	
A 27.5%	20.8%	24.1%																	
B 29.2%	24.9%	27.0%																	
C 20.3%	15.4%	17.9%																	
D 23.0%	38.9%	31.0%																	
学校関係者評価委員会の評価	生徒が先生をもっと信頼できるように日頃から人間関係を築いてほしい。教員は、本校の生徒が総合学科を選択して入学していることをよく考え、その特徴を活かしてより組織的に対応してもらいたい。																		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶を始めとして、学校生活のあらゆる場面において、努めて生徒に声をかける。生徒の些細な変化に気づくよう面談の回数を増やして生徒の実態把握に努め、生徒理解を深める。併せて、学校行事の精選や効率的な会議運営に取り組むことにより、生徒と面談する時間を確保する。 授業の開始・終了時だけでなく、校舎内外いずれの場においても教員と生徒がきちんと挨拶できるように徹底して指導する。教師の側から率先して挨拶するなど根気強く取り組んでいく。 																		

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
<p>2 生徒の学習意欲の喚起を図るための効果的指導法や授業改善に努め、基礎学力を定着させるとともに、生徒一人ひとりに応じた学力の向上を図る。</p>	<p>① 研究授業や公開授業を積極的に行い、授業改善に努める。</p>	<p>【努力指標】（教職員）授業では生徒の発言や活動を増やす授業の工夫に A 積極的に取り組んだ B ある程度満足できる取り組みができた C 積極的な取り組みはできなかった D ほとんど取り組めなかった</p>	<p>A+Bの平均＝81.5% 前期 後期 平均 A 22% 26% 24.0% B 52% 63% 57.5% C 26% 11% 18.5% D 0% 0% 0.0%</p>	<p>昨年度(71%)より増加した。ICT・グループ学習を活用した授業は生徒の興味・関心を高めるうえで効果的であり、今後も研究が必要である。今後も教員の相互授業参観や研究授業を通して、指導方法の工夫についての意見交換を積極的に行うとともに、校外での研修に積極的に参加して授業力の向上を図る。</p>
	<p>② わかる授業を行うとともに、生徒の興味・関心を引き出す授業の工夫・改善に努める。</p>	<p>【満足度指標】（生徒）ICT機器を使用した授業に対して興味関心を A とても持つことができた B 少し持つことができた C あまり持てなかった D ほとんど持てなかった</p>	<p>A+Bの平均＝61.3% 前期 後期 平均 A 18.9% 16.4% 17.6% B 43.9% 43.6% 43.7% C 30.1% 30.4% 30.3% D 7.1% 9.6% 8.4%</p>	<p>ICT機器を使用して授業を行う教員は比較的多いものの、指導法について意見交換する機会が少なく、生徒が興味・関心をもてる工夫や仕掛けが不足していることが考えられる。教員の相互授業参観や研究授業を通して、指導法の工夫について研修する場を設ける。</p>
	<p>③ 授業以外の時間での学習習慣の定着を図る。</p>	<p>【成果指標】（生徒）家庭での平均学習時間が A 1時間以上である B 45分以上～1時間未満である C 30分以上～45分未満である D 30分未満である</p>	<p>A+Bの平均＝29%</p>	<p>家庭学習はしているが定着までには至らなかった。予習・復習など家庭学習の必要性を絶えず説明し、問題集などの家庭学習課題を持たせ定期的な点検とテストを実施し、習慣化を図る。個に応じた課題なども検討する必要がある。</p>
	<p>④ 生徒が授業に集中し、発言等を通して授業に積極的に取り組む。</p>	<p>【努力指標】（教職員）ICT機器の効果的な活用に努めている教員の割合が A 80%以上である。 B 70%以上～80%未満である。 C 60%以上～70%未満である。 D 60%未満である。</p>	<p>D 57.0%</p>	<p>ICT機器の効果的な活用について、教員の研修を十分行うことが出来なかった。操作技術や工夫のある活用の仕方について学ぶ研修を校内で定期的実施する。授業の効率化を図り、生徒の興味・関心を引き出すためにも、ICT活用を促す働きかけを行う必要がある。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>ICTの活用が不十分であるように思われる。教員への研修を通して改善してもらいたい。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<p>・生徒が発言したり活動したりする場面を増やす授業を工夫したり、ICT機器を使って授業を行っている教員は以前より増加している。今後は、相互参観授業、研究授業等において、担当教科だけでなく他教科の授業を積極的に参観することに取り組み、ICT機器のより効果的な活用法や指導法について研修する機会を増やす。</p>			
<p>3 組織的なキャリア教育により履修や進路についてのガイダンス機能を充実させ、生徒一人ひとりの進路の実現を図る。</p>	<p>① 各学年に応じた進路学習を工夫し、主体的で継続的な学びができるように支援する。</p>	<p>【努力指標】（教職員）本校教育課程を理解し、生徒への助言支援が A 十分に助言・支援できる B おおむね助言・支援できる C あまり助言・支援できない D ほとんど助言・支援できない</p>	<p>A+Bの平均＝83.5% 前期 後期 平均 A 12% 20% 16.0% B 74% 61% 67.5% C 12% 19% 15.5% D 2% 0% 1.0%</p>	<p>昨年度(73%)より増加した。本校の教育課程について、全教員が熟知し、1年次生の系列選択において、生徒一人ひとりに丁寧な指導ができるようにする。</p>
		<p>【満足度指標】（生徒）進路行事・「産業社会と人間」・「総合的な学習の時間」の学習が進路を考える上で A 大いに役立った B ある程度役立ったと感じる C あまり役立たなかった D まったく役立たなかった</p>	<p>A+Bの平均＝79.8% 前期 後期 平均 A 36.7% 30.4% 33.5% B 45.5% 47.0% 46.3% C 15.6% 17.6% 16.6% D 2.2% 5.0% 3.6%</p>	<p>2年次以降、進学志望・就職志望に分けて指導する機会が少ないため、「総合的な学習の時間」の学習内容が自分の志望進路と合致していないと感じている生徒が約2割いるものと思われる。内容の一部見直しにより改善を図る。</p>

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
		【満足度指標】（生徒）担任との面談は、進路目標を定める上で A 大いに役立った B ある程度役立った C あまり役立たなかった D まったく役立たなかった。	A+Bの平均=71.9% 前期 後期 平均 A 27.2% 22.1% 24.6% B 47.9% 46.7% 47.3% C 20.4% 23.3% 21.9% D 4.5% 7.9% 6.2%	昨年度(66%)より増加した。面談の回数を増やすとともに、時期に応じて適切な進路情報を与えるなど、生徒個々の進路目標がより明確なものとなるよう工夫する必要がある。
	②各種資格、検定試験に取り組む機会を設け挑戦する意欲を喚起する。	【成果指標】（生徒）新たに検定や資格を取得した生徒の延べ人数が A 800人以上であった B 750人以上～800人未満であった C 700人以上～750人未満であった D 700人未満であった	B 760人	資格取得に意欲的に取り組む生徒が増加したものの、資格を取得した延べ人数は昨年度とほぼ同数であった。資格取得により、達成感を得させるとともに、志望進路の実現にどう繋がっていくのかをきちんと理解させながら取り組ませたい。補習の充実を図り、さらに生徒の意識を高める指導が必要である。
	③保護者や関係機関と連携を深め、進路指導の充実を図る。	【満足度指標】（保護者）提供された情報に対して A 満足できた B ある程度満足できた C あまり満足できなかった D 満足できなかった	A+Bの平均=83.9% 前期 後期 平均 A 27.4% 24.8% 26.1% B 58.8% 56.8% 57.8% C 12.3% 16.5% 14.3% D 1.5% 1.9% 1.7%	昨年度(81%)より若干増加した。ホームページの内容充実を図り、アクセス件数を増加させたい。適切な時期に適切な情報提供ができるよう、内容を精選し、一目でわかるように努めたい。
学校関係者評価委員会の評価	学校を挙げて、資格取得により一つ上の目標を目指すことは、中学生にとっても魅力的である。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「人間科学」「福祉・健康科学」「ビジネス」「生産技術」の4系列各々の分野の資格検定試験に、横断的に受験・取得に取り組ませるなど、総合学科としての本校の特徴を活かした進路指導を行う。 ・28年度に本県で開催される全国産業教育フェアに、本校の生徒が積極的に参加して総合学科を強くアピールするとともに、そこで学んでいることに自信を持たせて将来の進路選択の一助となるよう指導する。 			
4北陵「人間力UP」プログラムの中で、部活動や学校行事、地域貢献活動を通して活力ある学校生活の充実を図る。	①部活動の活性化を目指し支援・運営する。	【成果指標】（生徒）部活動への加入率が A 90%以上である B 85%以上～90%未満である C 80%以上～85%未満である D 80%未満である	B 前期 後期 平均 89.4% 89.7% 89.6%	部活動加入率は昨年度とほぼ同じである。2年次生の加入率が他年次生と比べて低いため、全体の加入率は上昇しなかった。
		【成果指標】（生徒）部活動への出席率が A 85%以上である B 80%～85%未満である C 75%～80%未満である D 75%未満である	B 84.2%	生徒は部活動に対し、前向きな姿勢で取り組んでおり、活力という面では成果が上がっているものの、大会等の成績面において、特定の部活動を除き成果は上がっていない。生徒同士が切磋琢磨できる練習環境や工夫を図り、生徒が満足感・充実感を持てるようにする。
	②地域行事・学校行事等に参加し、地域との連携を密にする。	【成果指標】（生徒）休日も含めて1回以上参加した生徒が A 500人以上であった B 450人以上～500人未満であった C 400人以上～450人未満であった D 400人未満であった	D 289人 (50.9%)	生徒会やJRC部を中心に積極的な地域への参加が見られた。しかし、限られた生徒が活動するにとどまっており、より多くの生徒の積極的な参加が望まれる。部活動を利用し、地域行事への参加を奨励し、参加人数を増やす。
学校関係者評価委員会の評価	以前に比べて活性化している部も見受けられる。生徒が互いの部活動を応援する姿もある。部活動の指導を通して、教員も生徒と共に母校愛を育みながら各部の目標達成に向けて頑張ってもらいたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の顧問は「第2の担任」であることを強く意識し、個々の生徒の活動の様子をよりしっかりと把握する必要がある。生徒が部活動にやりがいを感じ、自主的に活動できるよう、教員からのサポートが重要である。 ・笑顔、元気、前向きな高校生活を送れるよう、生徒と教職員がお互いに信頼感、存在感、期待感、達成感を感じられるように一体となって教育活動にあたる。 			